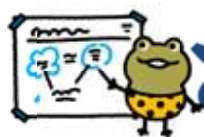


きょういく さど



平成29年3月24日

第52号

佐渡市教育委員会

学校教育課

総がかりで人材育成を

佐渡市教育長 児玉 勝巳

佐渡市は、人口減少や経済の衰退、高齢化等の多くの課題を抱えています。これらの課題が解決されるためには、佐渡の将来を担う子どもたちに、課題を解決していく力を育てていく必要があります。

そのためには、子どもたちが、地域で多様な大人と関わり、リアルな課題に触れる体験をすることも欠かせません。発達段階に応じ、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもたせ、自分のこととして捉え、考えさせることが重要です。多くの中学校で取り組んでいる課題解決型職場体験活動が目指すところでもあります。

各学校では、佐渡のことを思い、一所懸命に仕事をされている大人と、子どもたちを正対させる場を、より積極的に設けるよう、今後も努めてください。

佐渡市の中に、企業、地域おこし協力隊、PTA教員等で組織する「佐渡キャリア教育ネットワークミーティング」という有志の集まりがあるのをご存じでしょうか。佐渡市の中高校生対象に「佐渡のしゃべり場」等を企画し、佐渡の人材育成に取り組んでくださっています。

学校だけ、行政だけでは、人材の育成には限界があります。民間や地域からも応援していただき、ベクトルの向きをそろえ、「総がかり」で人材育成に取り組めるようこれからも多くの方々の御支援をお願いいたします。

お知らせ



佐渡キャリア教育ネットワークミーティングではフェイスブックページを始めました。

<https://www.facebook.com/sadocnm/> または、右のQRコードからアクセスしてください。



佐渡市教育振興基本計画

佐渡市教育委員会 管理主事 山田 裕之

『佐渡市振興基本計画』の事務局案が完成しました。本計画は、平成27年11月に策定した『佐渡市教育大綱』で定めた「基本理念」「基本方針」「基本目標」に基づく教育施策を示すものです。

平成28年度に入り、教育委員会事務局で原案を作成し、教育委員とともに十数回に渡り検討・修正を重ねました。また、市長部局である総務課、総合政策課からの意見も反映しました。その間に2回の総合教育会議を開催し、作成の方向性や内容について市長のお考えも聞かせていただきました。2月には大学教授や幼・小・中・高等学校の代表校園長並びに社会教育や関係機関の代表者12名を有識者として招聘して策定会議を開き、各方面から建設的なご意見をいただきました。

そうしてできあがった『佐渡市振興基本計画』は『佐渡市教育大綱』に掲げた6つの基本目標を達成するための18の施策を掲げました。それぞれの施策の下に(1)(2)・・・と項を起し、佐渡市の教育行政が学校や市民に向けどのような働きかけを行うかを記載しました。

基本目標1は「学校教育」、基本目標2は「キャリア教育」、基本目標3は「安全・安心な学校づくり」、基本目標4は「高等教育との連携」、基本目標5では「社会教育」の進める内容を、基本目標6では「家庭教育・地域教育」に関するものをそれぞれ掲げています。

本計画は、現在パブリックコメントにかけられ、佐渡市ホームページから閲覧できます。

是非ご覧いただき、ご意見のある方は手続きにしたがってお寄せください。



一年をふりかえって

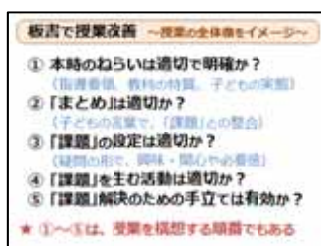
指導主事 平野 徹

学力向上を目指して今年度も指導主事等による学校支援訪問を行いました。参観して感じた成果や課題は、管理職や研究主任の先生に伝え、各学校での授業改善に生かしていただきました。学校によっては授業参観後、お一人お一人の授業者と面談する時間を設けていただき、直接お伝えした学校もありました。(来年度も学校の状況に応じた効果的な支援訪問を相談させていただきます。)

今年度はとくに中学校数学に焦点を当て、学力向上プロジェクトを進めてきました。中教研の数学部とも連携し、授業参観や担当者会議など研修を重ねてきました。この取組を通じて各学校の数学担当の先生方は生徒がアクティブに学ぶ授業を目指して新しい授業方法にチャレンジし、その効果を検討会で協議していました。少しずつですがweb 診断問題にもこれまで見られなかった改善傾向が見られるようにもなりました。

現在、学習指導要領の改訂に向けて「主体的・対話的で深い学び」がキーワードとなっています。今後ますます、研修で取り上げられることと思います。そこでお願いしたいのが「何を理解しているか、何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という育成すべき資質能力を出発点として授業を構想したり、検討したりするということです。

これは、市教委が行ってきた支援訪問で指摘してきた視点とも重なります。「課題」や「まとめ」の検討する前に、そもそも本時のねらいが適切であるのか、各教科・各授業において育てる資質・能力の面から考えていく姿勢を大切にしていきたいと思えます。



市総合教育センター研修を終えて

教育指導主事 市橋 良夫

佐渡総合教育センターは平成 28 年度「佐渡市の教育基本目標」に基づき、市内小中学校の教職員等を対象とした研修講座を実施してきました。

昨年 4 月の「新着任者研修」(当市に初めて赴任した教職員を対象)を始め、11 月末までに計 14 回の研修講座を予定どおり開催しました。いじめや不登校などの喫緊の生徒指導上の問題に対応した生徒指導研修、授業の指導・改善に向け実践例の紹介を通じた授業力の向上を期す研修を行いました。また、特別支援教育や人権教育、同和教育の充実など、いずれも今日的な教育課題への対応へ向けた研修を行いました。これらの研修には約 460 名の教職員や関係者から参加いただきました。感謝申し上げます。研修では、各校の情報交換や特色ある事例発表を通して、指導の改善に結びつく視点を得たり共通理解が図られたりするなど多くの成果を挙げることができました。

自主研修としては、小学校の体育の授業で自己研修テーマのもと、年間を通して研修に励む先生の姿がありました。綿密な授業の構想立てを行い、児童の学ぶ姿を通して取組の成果を検証するなど、熱心な取組がありました。また、11 ヶ校が島外から大学等の教授を招聘して校内研修を実施しました。そして小中 16 名の先生方が島外の先進校に出向いて研修し、自校の校内研修でその共有化を図るなど、積極的に学習意欲向上プロジェクトを活用していただきました。

次年度は、2020 年度から小学校で始まる外国語の研修を位置付け、授業の在り方や活動に関する新しい分野での研修を予定しています。あわせて当市の課題でもある家庭学習の望ましい習慣の獲得に向け、研修の場を設定する予定です。

平成29年度の学校評価の取組について

今年度、評価項目を従来の 5 観点から 3 観点到しぼって取り組んでいた学校評価ですが、来年度も同様に右の 3 観点で取り組んでいただきます。

(学力向上と体力向上に関わる項目は、今年度と同様にそれぞれ県が行う取組で評価します。)

来年度に向け、評価と改善をお願いします。

郷土愛を軸としたキャリア教育
いじめ・不登校を生まない学校づくり
体力を支える食育・健康教育の充実

